

千葉大学病院 ニュース

2005年9月

第5号



千葉大学医学部附属病院
Chiba University Hospital

〒260-8677 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

TEL : 043-222-7171 (代表)

URL <http://www.ho.chiba-u.ac.jp>

本院の基本理念

人間の尊厳と先進医療の調和を目指し、臨床医学の発展と次世代を担う医療人の育成に努める。

本院の基本方針

- 患者中心の最適な医療を提供します。
- 安全で良質な医療を実践します。
- 最先端の診断・治療法の開発を目指します。
- 卒前・卒後および生涯教育を通してプライマリ・ケアから先端医療までを実践できる医療人を育成します。

本院における患者の権利

- 公平で良質、かつ安全な医療を受けることができます。
- プライバシーが保護されます。
- 診断・治療法等に関して、十分な情報提供と説明を受けたうえで、自らの意思で決定できます。
- 臨床研究に関し十分な説明を受けたうえで、研究に参加するか否かを自ら決定し、いつでも参加を中止することができます。

患者様へ

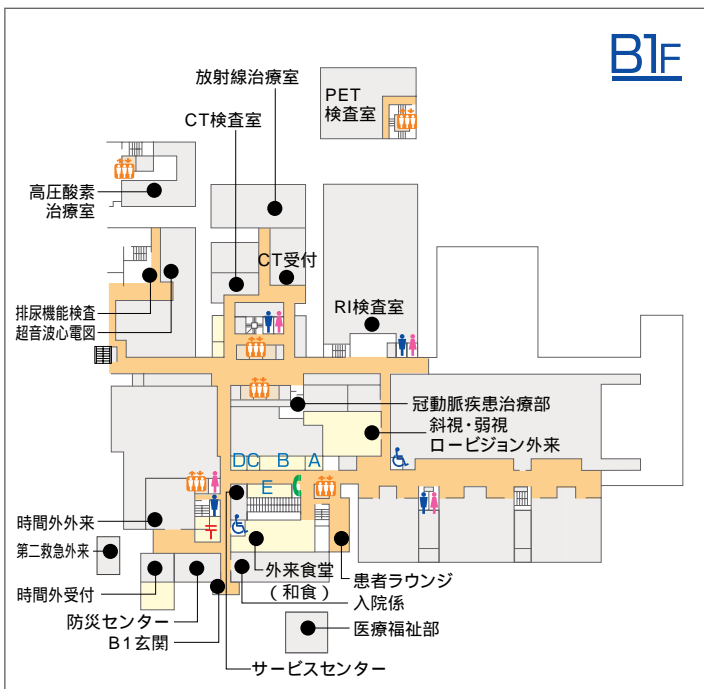
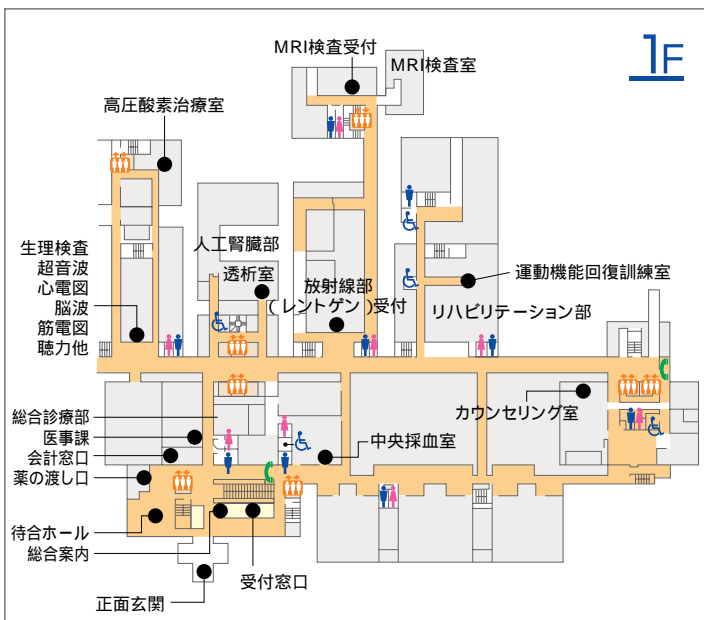
本院は、患者中心の質の高い医療を目指すとともに、次世代を担う優れた医療人を育成する医療機関であります。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

診 療 科 一 覧

診療科等名	場所	初診受付日
消化器内科	1F	月～金
血液内科	1F	月～金
腎臓内科	1F	月～金
アレルギー・膠原病内科	1F	月、火、木
糖尿病・代謝・内分泌内科	1F	月～金
循環器内科	1F	月～金
呼吸器内科	1F	火、木
心臓血管外科	2F	月、水、金
食道・胃腸外科	2F	月、火、木
肝胆膵外科	2F	月、水、金
乳腺・甲状腺外科	2F	月～金
呼吸器外科	1F	月、水、金
麻酔・疼痛・緩和医療科	B1F	月
泌尿器科	2F	月、火、木
整形外科	2F	火、木、金
眼科	1F	月～金
皮膚科	B1F	月、水、木、金
耳鼻咽喉・頭頸部外科	2F	月、水、金
歯科・顎・口腔外科	B1F	月、火、木、金
形成・美容外科	1F	火、木
精神神経科	B1F	月～金
脳神経外科	2F	月、水、金
神経内科	1F	月～金
婦人科	B1F	月、水、金
周産期母性科	B1F	月、水、金
小児科	1F	月～金
小児外科	1F	月、火、木
放射線科	B1F	月～金
総合診療部	1F	月～金
光学医療診療部	2F	火、水、木
こどものこころ診療部	B1F	水
感染症管理治療部	1F	月～金

- ・初診受付時間は、原則として午前8：30～10：30です。詳細は、総合案内(内線6087)もしくは各診療科の外来窓口にお尋ねください。
- ・紹介状をお持ちでない初診の患者さんは、特定療養費(2,625円)を頂きます。



記号のご案内



男子トイレ



車椅子対応トイレ



エレベーター



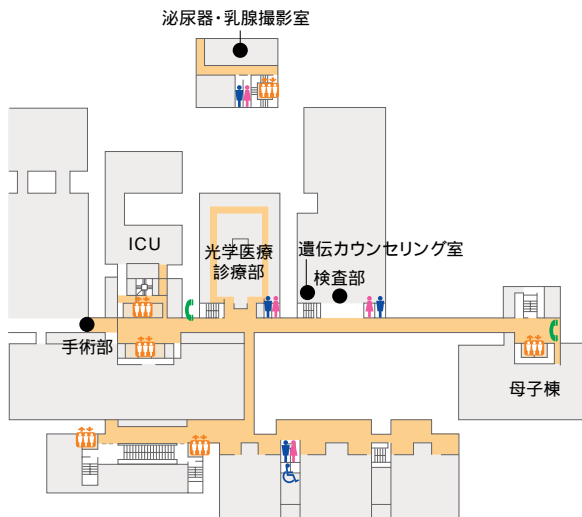
女子トイレ



公衆電話



エスカレーター



- | | | | |
|--------------|-----------------|------------------|-------|
| 階 段 | B クリーニング | D 売 店 | 患者様通路 |
| A 銀 行 | C 花 屋 | E コインロッカー | 郵便局 |

トピックス

ご迷惑をおかけします

ー外来診療棟の改修工事について(その2)ー

外来診療棟給排水管等の改修工事が平成17年7月11日に着工し、外来診療の一部は仮設診療棟において行われています。患者の皆様にはご不便、ご迷惑をおかけしておりますが、本改修工事が竣工（平成18年3月末日）しますと、各診療科壁面等が一新されるほか、外来患者の皆様にご配慮した以下のような改善を図る予定でありますので、ご理解のほどよろしくお願い致します。

- ① 個人情報保護の観点から、各診療ブースの出入り口に扉を設置します。
- ② これまで地下1階のみに設けられていた車椅子用トイレを、1階及び2階にも設置します。
- ③ トイレ内手洗い部分を、パウダールーム的な仕様に改善します。
- ④ 外来待合い個所に観葉植物を配置して、環境改善を図ります。

また、当院では、本改修工事に併せて安全で快適な化学療法を受けていただけるよう専用の部屋（通院治療室）を用意し、専任の常勤看護師2名を配置しております。

なお、詳細については別途配付しております「外来で化学療法を受けられる皆様へ」をご覧ください。

「セカンド・オピニオン外来」のご案内

「手術を勧められたけど、どうしよう」、「副作用の強い薬を使うといわれたけど、心配だ」。重大な決断を迫られた時、ひとりの主治医だけでなく、ほかの専門医の意見も確認した上で治療を受けたいと思うのは当然のことでしょう。病気の治療・検査方法について、自分の主治医以外に、別の病院の専門家に意見を聞くことをセカンド・オピニオン（第二の意見）といいます。日進月歩の医療では、専門家でも常に同じ意見とは限らず、特に判断の難しい選択を要する場合にはなおさらです。医療の高度化、専門分化に伴ってセカンド・オピニオンの重要性はますます高くなっています。

本院では、こうした要望をお持ちの患者さんのために、平成17年2月より「セカンド・オピニオン外来」を行っております。

相談の対象となる方

ご本人の来院が原則ですが、どうしても無理な場合、「同意書」があればご家族のみでも可能です。

費用と時間

31,500円 / 1時間（消費税込、健康保険非適応）

相談の手續（一般の受診手續はしないで下さい）

事前に電話予約が必要です。直接来院されても後日の予約になることがあります。相談に際し原則として、主治医からの紹介状、検査データ、レントゲンフィルム等をご用意下さい。

予約・問い合わせ先

電話：043 - 222 - 7171

（内線6085、6086、6538）

詳細はホームページでもご覧になれます

URL：http://www.ho.chiba-u.ac.jp/secoundopinion_info.html



診療科等のご紹介

血液内科 造血細胞移植療法の紹介

「血液内科」という名称を聞いて、どのような病気を扱っているかすぐにわかる方は少ないかも知れません。血液内科は、血液の細胞成分である白血球、赤血球、血小板や、凝固因子と呼ばれるタンパク質の異常によって起こる様々な病気を対象とする診療科です。最も身近なところでは「貧血」がありますが、私達の臨床で大きなウェイトを占めるのは、白血病を初めとする造血器悪性腫瘍（いわゆる“血液のがん”）です。頻度の高いものとしては急性白血病（骨髄性・リンパ性）、慢性骨髄性白血病や悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などがあり、非常に治療が難しいとみなされる病気が含まれています。

しかし、血液疾患は治療法の進歩が目覚ましい分野でもあります。具体的には、新しい治療薬の開発によって治療の成績が年を追って向上していること、また造血器悪性腫瘍を完全に治すための治療法としての「造血細胞移植療法」の進歩です。「骨髄移植」という言葉は既にポピュラーになったと思いますし、骨髄バンクのCMをご覧になった方も多いことでしょう。1970年代に始まった骨髄移植と、その後開発された「末梢血幹細胞移植」「臍帯血移植」を総称した言い方が「造血細胞移植」です。私達はこのような治療法に積極的に取り組んでおり、現在までの同種造血幹細胞移植症例は220例と千葉県下では随一の移植症例数を誇っています。かなり大がかりな治療で患者さんの負担も少なくありませんが、多くの患者さんがこの方法で病に打ち克っています。高度な診療技術と経験を要する治療法であり、私達は臨床面での中心的課題に据えています。

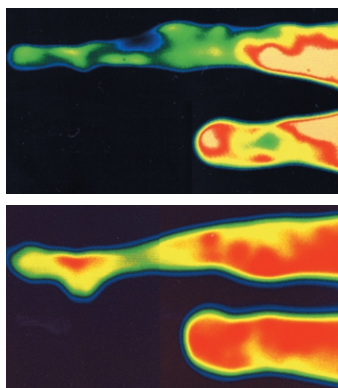
造血器悪性腫瘍は比較的希な疾患が多く、その治療の進歩には多くの施設が集まって研究を行う、「多施設共同研究」が必要です。私達は成人白血病の共同研究グループであるJALSGや骨髄バンクの共同研究にも積極的に参画しております。

循環器内科 先進の循環器医療

循環器内科では、心不全・急性心筋梗塞・狭心症・大動脈瘤・大動脈解離・不整脈・先天性心疾患・末梢血管疾患・高血圧など様々な循環器疾患の診断と治療を行っています。いずれも生命や平穏な日常生活を脅かす、重要な疾患であることから、24時間の救急対応から、慢性期のコントロールまで患者さん一人一人に応じてきめ細やかな治療を心がけています。また、上記疾患はいわゆる生活習慣病であり、肥満、糖尿病、高脂血症などが原因であることも多く、これらの治療もあわせて行っています。

当科の特徴は、これらの病気に対して、様々な画像診断を用いて的確に診断、治療方針を立てて、最新の治療を行っていることです。手術が必要な場合は心臓血管外科に依頼しています。新しい治療法を積極的に取り入れており、多くの先進医療を行っています。例えば、急性心筋梗塞は心臓を養う血管が動脈硬化によって詰ってしまう病気ですが、当科では24時間体制で緊急のカテーテル治療を行うことが可能です。積極的に血管内超音波法などを用いることによって良好な治療成績をあげています。先進医療については、現在サイトカインを用いた急性心筋梗塞治療、重症下肢虚血に対する末梢血単核球移植治療を行っています。

後者についてはこれまでに、下肢切断を宣告されるほどの重症例40症例以上に対して本治療を行い、大切断の回避（89.7%）・皮膚潰瘍の改善（76.2%）・疼痛の改善（84.0%）など良好な成績を収めています。



移植治療前（上段）と治療後（下段）の皮膚温の変化

診療科等のご紹介

小児科 最新の専門診療と包括的医療

小児科の診療の対象は一般には新生児から中学生までの内科的な病気とされていますが、当科では胎児、出生、小児、思春期を経て成人への発達、そして次世代のサイクルに関わる医療を総合的かつ継続的な視点からみていく「成育医療」も行っています。また、小児の喘息発作、気管支炎、肺炎、胃腸炎などの急性疾患の外来・入院診療だけでなく、大学病院としての使命を果たすために各領域の専門診療による高度医療と包括的医療に特に力を入れています。

最新の専門医療：小児は小さなおとなではないとは言いますが、成長や発達に伴う問題やこども特有の病気だけでなく、おとなと同じように様々な臓器の病気にかかることもめずらしくありません。多様なこどもの病気の診療に応じるために、当科では第一線のエキスパートによる専門外来として、免疫・アレルギー外来（アレルギー疾患・膠原病・免疫不全症）、循環器外来（心臓病・川崎病）、代謝・肝臓外来（先天代謝異常症・肝臓疾患）、内分泌外来（成長障害・ホルモン異常による疾患・糖尿病）、感染外来（慢性あるいは反復性の感染症）、神経外来（神経疾患・発達の遅れ・てんかん）、血液外来（血液疾患・白血病・リンパ腫）の診療を行っています。また、入院診療では、小児病棟内に12床の無菌室を備え、骨髄移植や臍帯血移植などの高度医療にも対応しております。

包括的医療：小児科の診療の基本はあらためて申すまでもなく総合診療であり、成長・発達段階に応じて生じてくる新たな問題をご家族とともに解決していくことも必要です。当科では様々な合併症をもつこどもや診断の困難な病気をもつこどもの診療にあたっては、小児科内の各領域の専門医同士のスムーズな連携と他科との協力による包括的医療を行っています。

救急部・ 集中治療部

救急疾患、重症例の集中治療

私達の救急部・集中治療部は救急部と集中治療部がドッキングした形で運営されております。したがって、我々が診療する患者さんは2種類に大別されます。すなわち救急部としては院外で発症した急性疾患や外傷の患者さんを診療します。集中治療部としては院内あるいは他の病院で発症した集中治療を要する重症疾患、特に各種の重要臓器の機能不全を合併した重症例をICUに収容して診療しますが、その最重症型である多臓器不全の診療を最も得意としており、日本はおろか世界でもトップレベルの診療実績、診療成績を誇っています。救急車で搬送されて来たり、救急ヘリコプターで搬送されて来た患者さんをそのままICUに収容し、集中治療を行なうこともよくあります。

どのような種類の急病であっても、受診する医療機関が無くお困りの場合には本院の救急部へご相談下さい。1日24時間、1年365日、本院のICUにご連絡下されば、いつでも相談に応じます。連絡を取った後来院して頂き、必要に応じて他の診療各科と協力のもと、適切な治療を行ないます。さらに多発外傷や広範囲熱傷などの重症救急疾患の治療もまた得意としておりますので不幸にして受傷してしまった場合にはご相談下さい。また敗血症や急性腎不全、急性肝不全、急性呼吸不全などで他の医療機関ですでに治療を受けていて、本院の集中治療部での診療をご希望の際にはその医療機関の先生にお願いして、われわれと連絡をとって下されば幸いです。これらの疾患の治療も喜んでお引き受け致します。



薬剤部から

お薬の効果を理解しましょう

お薬はケガや病気そのものを治療したり、症状を和らげたりするために使われます。しかし、同じ病気にかかっている患者さんでも年齢、性別、身長、体重などが異なるため、同じ薬が使われるとは限りませんし、仮に同じ薬が使われていても量や使い方が患者さんによって異なってきます。なぜこの薬を飲むのか、いつどのように飲めばよいのか、などについて患者さん自身がよく理解することで、病気と向き合うことに対して意識がもてると思います。病気と薬に対する正しい知識を持って治療に取り組みましょう。

お薬情報提供紙を活用しましょう

お薬情報提供紙には、患者さんが使用するお薬の効果および副作用の症状や、一回に服用するお薬の量などが記されています。これをもとに薬剤師がお薬について説明しています（写真）ので、正しい知識を身につけて治療に取り組んでください。

お薬情報提供紙の発行に関し、同じお薬をずっと使用しているため、毎回情報提供紙をもらう必要はないと思う患者さん、あるいは必要だと思われる方はその旨をお申し出ください。患者さん自身がお薬を確認しながら正しく使用するためにも、お薬情報提供紙の利用をおすすめいたします。



口頭での説明

看護部から

ナースの「知っとくお得」講座

食欲の秋、運動の秋、糖尿病の秋？

もうすぐ本格的な秋。秋の味覚も楽しみ、でも、体重も気になる...そんな方に、今回は身近にできる生活習慣病の予防についてお話しします。

体重と生活習慣病の深い関係

平成9年の厚生省糖尿病実態調査では糖尿病が強く疑われる人の約53%が過去に肥満だったとがあると報告されています。肥満対策は



肥満の基準BMIと標準体重を計算してみましょう

BMI = 体重 kg ÷ 身長 m ÷ 身長 m

BMI	18.5未満	低体重
	18.5 ~ 25未満	普通体重
	25以上	肥満

標準体重(kg) = 身長 m × 身長 m × 22

ちょっとした心がけとちょっとした運動

運動にはコレステロールや血糖を下げる効果があります。脈拍100~120回/分になるくらいの運動を15~30分、少なくとも週3回行なうことが効果的です。例えば、バスや電車を一駅前で降りて歩くとか、エレベーターを1階下で降りて階段を登るなど、日常生活の中に運動の要素を取り入れてみてはいかがでしょうか？

食欲の秋に規則正しい食生活を

- ・ 1日に3食、朝食もしっかり食べる。
- ・ ゆっくりとよく噛んで。(1口20~30回噛む)
- ・ 腹8分目で食べ過ぎない。残す勇気を!
- ・ 動物性脂肪や甘いもの、塩分は控えめに。
- ・ 大皿盛りではなく、一人分ずつ取り分ける。

この秋、「ちょっとしたこと」を日常生活に取り入れてみてはいかがでしょうか？

看護職員を募集しています

職 種	看護師及び助産師
雇用形態	常勤職員、非常勤職員(パート)
詳細に関しては、下記にお問い合わせください。	
看 護 部	043-226-2650
総務課人事係	043-226-2222

千葉大学医学部附属病院への交通案内



ご来院にはバスが便利です。

1. JR千葉駅から

東口正面7番のバス乗り場から「大学病院」または、「南矢作」行きバスに乗車、「大学病院」で下車。

(約10分毎、所要時間約15分)

2. JR蘇我駅から

東口2番のバス乗り場から「大学病院」行きバスに乗車、終点「大学病院」で下車。(約20分毎、所要時間約15分)

3. 京成電鉄 千葉中央駅からタクシー(所要時間約10分)

(表紙写真は江幡菜美江氏提供)

(当院では本ニュース扉の写真を募集しています。総合案内でお預りします。)